

CAMPUS NET

特集

地域に寄り添う看護の形



地域に寄り添う看護の形

看護師が活躍するフィールドはどんどん広がっています。その一つが、地域で活躍する看護師です。一般的には「訪問看護」や「在宅看護」と呼ばれています。病院以外での看護師の役割は今後ますます増えていくと考えられます。そんな地域の看護の現場で働く、本学の卒業生を訪ねました。(取材：子吉 知恵美)

CASE 1 看護小規模多機能あわらんち (石川県羽咋市)

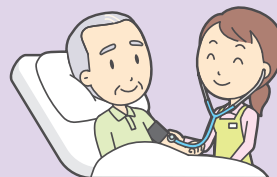
羽咋市ののどかな田園地帯にある石川県ではまだ数少ない「看護小規模多機能型居宅介護」(通称：カンタキ)の施設。「看護小規模多機能型居宅介護」は、「訪問看護」「訪問介護」「通所」「宿泊」を使って利用者の方の24時間365日を自宅や地域で支えるサービスです。ベテラン看護師3名が「自分たちでできることをやりたい」とデイサービスからスタートし、現在は訪問看護ステーションや介護タクシーなどの事業も行っています。



常橋 仁美さん(2013年卒業)

訪問看護とは

病気や障がいもちながらも、病院ではなく家で生活をしたいという思いを支えるためにその方に必要な看護をお宅に訪問して行うことです。その方の病気や障がいに応じて看護を行います。子どもから高齢者までを対象とし、病状や障がいが軽くても重くても、訪問看護を必要とする人が受けられます。



Q&A

— 現在のお仕事内容を教えてください。

看護小規模多機能あわらんちに所属し、訪問看護を行っています。1日5～6人の利用者さんを訪問し、薬の管理や点滴をしたりなどの医療的な支援を行います。訪問介護や医師とも連携し、どんなケアをしていくか考えています。ひとりの利用者さんに関わる時間は30分～1時間半ぐらい。病院と比較するととても長いです。一人ひとりにじっくりと向き合うことができるのは訪問看護の魅力だと思います。

— ここに勤務するようになったきっかけは何ですか？

大学卒業後は3年間、総合病院で看護師として働いていました。もともと、訪問看護に興味があったのですが、基礎的な技術を身につけてからでないとハードルが高いのかなと考えていました。ここに訪問看護ステーションができたと聞いて、働かせていただくことになりました。個性的な方が多く、にぎやかで楽しい職場です。

— 実際に働いてみての印象はどうか？

最初はなかなか心を開いてくれない利用者さんもいて、家庭の事情なども本当に様々なケースがあることに驚きました。家族も大変ですし、きれいごとじゃ済まされないことも多いですが、ご本人が優先したいことは何かを考えながら生活をみることで、何をすればいいのかがわかってきたように思います。地域の中で看護をしたいという思いがあったので、毎日が充実していますし、訪問看護師になってよかったと思っています。分からないこともたくさんありますが、頼りになる先輩方に相談しています。利用者さんの希望をできるだけかなえられるように、臨機応変に動けることがこの施設の特徴です。身体が動かなかったり、言葉が出ないと生活が制限されることが多いですが、その中でも、やりたいことができるように、サポートすることを心がけています。



月に1度の認知症カフェ。この日は常橋さんが講師です



ひとつの事業所で介護サービスのすべてを提供しています

—取材を終えて—

訪問看護師はベテランが多く、こちらの施設でも常橋さんはいちばんの若手です。代表の井表さんから「若手ならではの柔軟性が訪問看護で発揮できるのでは。今後は新人に向けた教育プランも考えていきたい」とのお話をお聞きし、心強く感じました。

CASE 2 オレンジホームケアクリニック (福井県福井市)

2011年、福井県初の複数医師による24時間365日体制の在宅医療専門クリニックとしてスタートしたオレンジホームケアクリニック。医師・看護師・社会福祉士・セラピスト・診療クラークなどがチームとなり、患者さん一人ひとりの“生きる”に寄り添うサービスを提供しています。北陸の新卒訪問看護師第1号の新田さんと就職して1年の宮田さん、二人の本学卒業生にお話をお聞きました。



宮田 朋海さん(2019年卒業)



新田 大貴さん(2016年卒業)

Q&A

— どのような施設なのですか。

新田 全国にある訪問看護ステーションのうち、クリニックを併設しているのは1割程度といわれています。私たちは在宅クリニックと一体となったステーションという特徴を生かして、訪問看護だけでなく、訪問診療に同行したり、医療ケアが必要な子どもと家族を支える施設「オレンジキッズケアラボ」で勤務したり、外来で相談を受けたりと、地域を舞台に幅広く活動を続けています。だから、私たちは「訪問看護師」ではなく「地域看護師」と名乗っています。

— 就職した理由、きっかけを教えてください。

新田 訪問看護だけでなく、地域でいろいろなことを勉強したいと思ったのが理由です。大学1年生のころから「がんサロン」での活動に参加していたのですが、そこで出会った方から「新田くんのいいところは誰とでも壁をつくらずに話せることだね」といわれました。そうした強みが生かせる地域医療の現場で働きたいと思いました。新卒の受け入れ先が少ない中で、オレンジホームケアクリニックを知り、研修や面談を経て、就職することになりました。そのときに「看護師の新田さんではなく、新田大貴という人を雇います」といわれたことはとても嬉しかったです。

まるでカフェのようなおしゃれな建物



宮田 学生のころからひとりの患者さんにじっくり関わりたいという思いがあり、研修を通じて在宅での看護が自分のやりたいことに近いのではないかと感じていました。進路を迷っているときに、開学記念日の講演会で新田さんの話を聞いて興味を持ち、すぐにお話を聞かせてもらいました。入社してみると実習で行った訪問看護ステーションとは全く違うことに驚きました。職種の壁がなくて、すごくフラットでそこは大きな魅力だと思います。

— どんな働き方をしているのですか。

新田 新たな働き方に挑戦しています。月の約半分をオレンジで、あと約半分は島根で訪問看護師として働いています。チームの一員として利用者さんの安全、安心、安楽を考えて活動を続ける中で、徐々に（近くに医師のいない）単独の訪問看護ステーションでも実践を積みみたいと思うようになりました。そんなときに島根県雲南市にある訪問看護ステーションコミケアと出逢い、利用者の「自立」を支える看護観に共感しました。現場をともにすることで、学べること・感じるが多くあるのではないかと思います。共に活動しています。二つの拠点で働くことで、どんな医療チームが地域にあるといいのかとか、どんなマインドを持った医療人が育つといいんだろうかというところにも興味があり、今は組織マネジメントなども勉強しています。今後は現場を通じた人材の教育にも携わっていきたいです。

宮田 最初の5カ月ぐらいはドクターの訪問診療に同行していました。今は外来にも出ています。疾患の勉強をもっとしたいと考えていて、医師が身近にいる現在のクリニックは、いろいろ学ぶ上でとても良い環境だと思います。訪問看護に興味があって就職しましたが、資格や経験も異なる多彩なスタッフに囲まれて、他の部分にも興味が出てきたところです。

仕事の流れはどんな感じですか？

この日はこれというものはなく、訪問看護、訪問診療、ケアラボの3つに主に携わっています。



月曜は事務所、火曜はケアラボ、水曜は午前が外来で午後は訪問看護というように曜日により違います。



取材を終えて

地域で活躍する看護師を増やしていくことは国の施策でもあり、これからの大学のカリキュラムでも大きな位置を占めます。卒業しても学び続け、成長している二人の姿がとてものしく、今後のさらなる活躍が楽しみになりました。



教授 小林 宏光
Kobayashi Hiromitsu

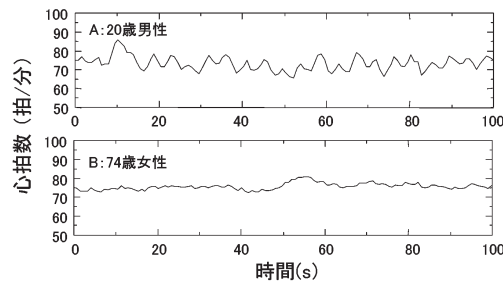
専門分野 人間工学

● PROFILE

愛知県生まれ。1990年九州芸術工科大学（現九州大学）芸術工学研究科生活環境修了。博士（理学）。2000年より石川県立看護大学助教授、2010年より教授。

心拍変動による自律神経機能評価

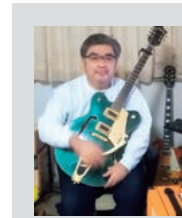
ガリレオ（1564-1642）は、教会のシャンデリアが揺れているのを見て、振り子の等時性を発見したと伝えられていますが、その際に自分の脈をとり時間を計ったといわれています。振り子の等時性の発見に、心拍が一役買ったわけですが、実は心拍はそれほど一定間隔で発生するわけではなく、その間隔には常にゆらぎが存在します。このゆらぎは心拍変動（Heart Rate Variability; HRV）と呼ばれています。



上の図は20歳男性と74歳女性の心拍変動です。平均の心拍数はあまり変わりませんが、ゆらぎのパターンは大きく異なり、高齢者ではゆらぎ幅が極端に小さく

なっています。これは加齢に伴う自律神経機能の低下を反映していると考えられています。この心拍変動の揺らぎパターンは、加齢だけでなく、精神的緊張など様々なストレスによる自律神経活動の変化も反映すると考えられており、看護的研究を含め様々な分野で活用されています。この心拍変動について、基礎的・応用的な研究を続けています。

アンドロイドでもiPhoneでもスマホのストアで“HRV”で検索してみましょう。たくさんアプリが登録されています。ものによってはスマホのカメラで脈拍を測定し、アプリを入れるだけで実際に心拍変動測定ができるものもあります。興味のある人はやってみましょう。



「私をグレッッチで殴って」のGretschです。フルアコのG5422TGです。後ろはEpiphone レスポール。



看護師の視覚情報に関する観察力向上を目指して

その道のプロは「観察眼」が違うと言われてます。それは、看護の分野においても当てはまります。私が臨床で看護師をしていた時、先輩からの早くて鋭いツッコミ（観察眼に基づく）に驚かされました。先輩の目が欲しいと本気で考えたものです。看護師は患者の情報について五感を用いて把握しています。五感を用いた情報収集の中でも87%は視覚情報といわれており、視覚情報は看護実践の質を左右するものであるといえます。看護師は、瞬間的に、この視覚情報をもとに患者の状態を専門的知識に基づいて判断し、ケアの実践を行っていると考えられています。そのため、看護師がどのように視覚情報を得ているのかを明らかにすることは、より良い患者ケアを提供するために重要であるといえます。

では、観察眼のある人との違いは何にあるのでしょうか。『見ているもの』に違いがあるのか、『見ている時間』が違うのか？はたまた、見ても知識と結びつかないのか。それらの疑問に対して、看護師や看護学生を対象に調査しています。ある場面を見せ、眼球運動を測定し、どこに転倒リスクがあるのかについて考えたことを聞きました。そこで分かったことは、患者の歩行場面を見た際、観察眼のある集団は全員が“足元”

を見ていたのに対し、観察眼を身に着けている途中の集団は、半数しか“足元”を見ていなかったことです。見ていた人でも「足元を見て、普通に歩いていると思った」など、細かい観察ポイントがわかっていなかったのです。

このような調査をしていると、よく看護師や看護学生から「見てると思っていただけ、案外見ていないことに気づいた」と言われます。調査自体が自己の振り返りになっているようです。この振り返りというプロセスもまた、看護師の実践能力を高めるために有効であると言われてます。今後は、『何を見て、どう考えているか』だけでなく、看護学生や看護師の「観察眼」を向上させるために、振り返りまでを含んだ教育プログラムを作成し、その効果について検討することに取り組んでいきます。



山に住んでいますが、山好きです(虫は嫌い)。ソロハイクや親子ハイクを月1回ペースで楽しんでいます。パドミントンも週1回以上しています。



第39回日本看護科学学会学術集会

学術集会長 石垣 和子 (石川県立看護大学 学長)

昨年の11月30日・12月1日の両日にわたり石川県立音楽堂を主会場に第39回日本看護科学学会学術集会を開催いたしました。全国から3,821名の参加者、研究発表等988演題を得て、盛会のうちに終えることができました。本学の教員には企画委員・実行委員等として、学部生・大学院生にはボランティアとして学会運営を支えていただきました。深い感謝の思いでいっぱいです。

メインテーマ「ヒトと人間の科学を看護へ～時空を超える我々を知り、看護学を別次元へ～」に沿って、学術集会長講演を起点に特別講演、合同シンポジウム、対談、パネルディスカッションへとヒトと人間の科学の蓄積に学び思考が発展するよう企画していただきました。それぞれの演者からの発言や参加者との討論を通して、看護科学に必要な人間観を豊かに醸成する機会にさせていただいたら嬉しく思います。これからの看護科学の一層の発展に向けて、若い研究者や学生たちにバトンを託したいと願っています。



学術集会長講演



学術集会長と在学生ボランティア

14年間ありがとう！

定年退職教員ご挨拶

多久和 典子 (担当：健康科学講座 教授)

2020年3月、定年退職の日を迎えました。着任時から、諸外国で活躍しているNurse Practitioner (NP, 診療看護師) の教育課程にも適合するレベルの内容を面白くわかりやすく教授することを心掛けてきました。幸い講義資料が実習現場や卒業後も活用されていると聞き、大変うれしく思います。これまで千名以上の卒業生・在校生の皆さんの成長にお役に立てたことは私の誇りです。皆様お元気です！またお会いしましょう。(なお、「退任記念誌」を図書館に寄贈しました。お手にとっていただけると幸いです。)



大木秀一名誉教授記念植樹

先生は2003年、本学に着任されました。学部(公衆衛生学、疫学)及び大学院(統計解析、研究方法論)の教育と、多胎研究者として遺伝疫学の発展に邁進してこられました。数多くの論文と看護研究に関する入門書を公表され、私たちの誇りとなっています。このようなご活躍の中、突然病に倒れられ、2019年4月、56歳という若さで旅立たれました。先生がこよなく愛した研究の発展、大学人として教育に関わることもはや叶わぬこと、本当に残念でなりません。2020年3月、先生の御家族にも参加いただき、大学構内に大木先生がお好きだったオリーブを記念樹として植樹しました。オリーブの木の花言葉は「平和」と「知識」です。私たちは、これからも全力で生きてこられた大木先生を忘れません。(多久和 典子)





EVENT

卒業式・学位授与式
学部82名が卒業、大学院16名が修了

肌寒さは残りつつもお天気に恵まれた令和元年度の卒業式。COVID-19対策会議が何度も行われ、多くの方々のご尽力のおかげで開催することができました。当日、講堂には卒業生・修了生及び一部の来賓の方・教職員しか入れませんでした。講堂の様子が中講義室に映し出され、保護者の皆様にも卒業式の雰囲気をお伝えすることが出来ました。苦



境の中にあっても今できる“最善”を模索して挙げてきたことを嬉しく思います。

学長表彰

今年度の学長表彰は、大岡未咲さん(学業優秀者)、河口祐里奈さん(在宅療養児の運動会企画運営・人命救助)、河端優佳さん(3カ国での海外研修・グローバルリーダー)、立川啓太さん(クラス委員・大学祭実行委員・広報活動)、寺西千晶さん(子育て応援サークルひよっこの創設・サークル長)の5名でした。今年度は、仲間と共に取り組んだ内容も多く、幅広い活動が評価されました。代表して、寺西千晶さんが賞状を受け取りました。



学部卒業生の言葉

仲間がいたからこそ乗り越えられた
充実した4年間に感謝

令和元年度 4年生
林 未紗さん

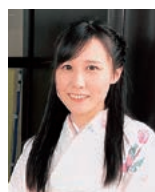


4年間で最も印象に残っているのは、臨地実習です。患者さんに必要な看護は何か、悩んだことが何度もありました。そんな時にそばで支えてくれたのが、実習メンバーでした。仲間と辛さを分かち合い、助言をもらうことで、精神的に助けられ、自分の目指す看護を見つけることができました。仲間がいたからこそ、4年間を乗り越えられたと思います。自分が多くの人に支えられていることを実感した4年間であり、仲間や先生方、家族には感謝の思いでいっぱいです。

大学院修了生の言葉

なりたい助産師像を形成した
2年間

令和元年度 大学院
博士前期課程
助産看護学分野
新谷 里沙子さん



大学院での2年間はとても濃い時間でした。実習では様々なお母さんとの出会い、赤ちゃんへの思いを感じ、責任感、助産師としての役割を改めて考えさせられました。授業では臨床で活躍している方にお話を聞きながら学ぶ機会が多くあり、助産師としての熱い思いを感じ、なりたい助産師像を形成することもできました。多くの学びを得ることができた分、辛いこともありました。助産師を目指す仲間や先生方、他領域の院生の存在が励みになりました。初心を忘れずに頑張りたいです。

REPORT

グローバル・ヤングリーダーを
目指して学んだこと 春日 祥子さん

私はグローバル・ヤングリーダーを目指す過程として、様々なボランティアや講演会に参加しました。大学に入り、自分の興味・関心のあることを大切にしていこうという思いで活動しました。また、海外研修や短期留学等の国際交流を通して医療者としての多文化理解の必要性や多様な考え方にも触れることができました。プログラムを通して「コミュニティの課題は見ようとしなければ見えない」と気づき、これは私にとって大きな収穫であったと感じています。



TOPICS

羽ばたけ! 認知症看護認定看護師
教育課程修了生

2020年2月吉日、「認知症看護認定看護師教育課程修了式」が行われ29名が修了しました。石垣和子学長が式辞を述べられ、来賓の大居勝宏石川県医療対策課長および小藤幹恵石川県看護協会会長からご祝辞をいただきました。日本は、世界一の高齢社会を迎えており、認知症になる可能性は誰にでもあります。修了生のこれからの地域貢献に期待したいと思います。



EVENT

第21回 入学式

桜がほころび始めた季節に ― 学部80名、大学院16名が入学

4月3日(金)、第21回石川県立看護大学入学式を本学講堂にて挙行了しました。

看護学部80名、大学院16名が入学を許可されました。

石垣和子学長は式辞で「経験すること、学問を通して物事の本質をとらえることが、看護職の資質を高める」と述べました。ご臨席を賜りました皆様から、昨今の医療情勢にお

ける看護職への期待に激励を込めた祝辞をいただきました。新入生代表が宣誓を行い、決意を胸に新たなスタートをきりました。

桜の花がほころび始める中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策をとり、関係者各位のご理解とご協力を賜りながらの開催でした。我々教職員一同、学生の個性を生かした看護教育に取り組んでいきたいと思



TOPICS

ドイツ・メスキルヒ市 青少年訪問団と交流

11月7日(木)、かほく市の姉妹都市であるドイツのメスキルヒ市より、青少年訪問団20名が本学を訪問しました。訪問団は1年生のドイツ語の授業でメスキルヒ市を紹介した後、学生と一緒にグループワーク等を行いました。学んでいるドイツ語を実際のコミュニケーションで使う機会となり、外国語を学ぶ意義や楽しさを実感しました。



附属施設 INFORMATION

附属図書館

教員からの推薦図書コーナーを設置

令和元年度、学生の図書館資料活用促進を目指して、「教員からの推薦図書コーナー」を設けました。月ごとに担当領域・講座を決めて5冊程度の図書とその本に関する推薦文を書いてもらい展示しました。興味を持って手にとったり、数冊まとめて借りていく学生も見られました。また、令和2年度には新しく英語のデータベースやデータベースから論文全文アクセス機能を持つ「リンクリゾルバー (360Link)」も導入され、その有効利用のための研修会も予定しています。



地域ケア総合センター

地域公開講座を開催

地域ケア総合センターの地域活動部会では、令和元年度、かほく市いきいきステーションの協力を得て、いきいきシニア世代を対象に『地域公開講座』を開催しました。我々が持つ知見を地域住民に還元する目的で行いました。定員は10名ですが、毎回定員を超える応募があり、5回の講座は活気あるものになりました。また、学生がいきいきステーションを訪問し、「持ち寄りカフェ」に集う皆さんと語らう取り組みも行いました。地域の方々から多くを学んでいるようです。



看護キャリア支援センター

看護キャリア支援センター 新メンバーです どうぞよろしく!

2020年、看護キャリア支援センターは「感染管理認定看護師教育課程」の認定看護師教育課程を開講します。

世界に新型コロナウイルスによる感染拡大が続く中、今まさに「感染管理」に関する専門的な知識や技術をもつ認定看護師は、医療・介護現場で必要とされています。是非、看護師の皆さまの入学をおまちしています。



国家試験の合格状況 令和元年度看護師・保健師国家試験合格状況（第17期生の状況）

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国(新卒のみ)
看護師	83名	83名	81名	97.6%	94.7%
保健師	83名	81名	79名	97.5%	96.3%

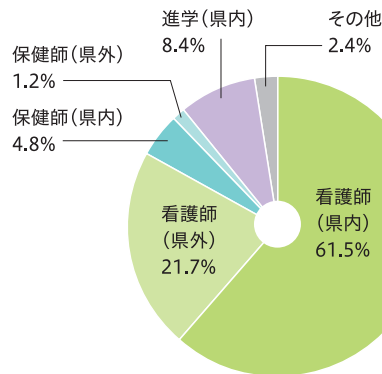
卒業生の進路状況 令和2年3月31日現在の就職・進学状況は次のとおりです。

〈県内就職内定・進学先〉

看護師 石川県立中央病院、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、公立松任石川中央病院、金沢医療センター、公立能登総合病院、公立穴水総合病院、珠洲市総合病院、町立宝達志水病院 他

保健師 金沢市、加賀市、能美市

進学 石川県立看護大学大学院、金沢大学養護教諭特別別科



〈県外就職内定・進学先〉

看護師 富山県立中央病院、富山大学附属病院、柏崎総合医療センター、藤田医科大学病院、藤田医科大学岡崎医療センター、豊橋市民病院、総合東京病院、板橋中央総合病院、NTT東日本関東病院、多摩北部医療センター、彩の国東大宮メディカルセンター、平塚共済病院、北里大学病院、千葉中央メディカルセンター、京都第二赤十字病院、堺市立総合医療センター、製鉄記念広畑病院 他

保健師 長岡市

令和2年7月11日(土)

WEB オープンキャンパス開催

大学ホームページよりお申し込みください(現在準備中)。大学院進学希望者のプログラムもあります。



石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先(石川県立看護大学総務課) 076-281-8300



新型コロナウイルスと闘う保健・医療・福祉の分野で活躍される皆さまへ

見えない敵との闘いは怖くて当然です。

それでも責務を必死に遂行し、

人々の命を守っている皆さまに、心から感謝しております。

ありがとうございます。